

⑫ 実用新案公報(Y2)

平4-31059

⑬ Int. Cl.⁶A 61 F 5/44
13/15

識別記号

H

庁内整理番号

7807-4C

⑭ 公告 平成4年(1992)7月27日

2119-3B A 41 B 13/02

K

(全6頁)

⑮ 考案の名称 採尿用おむつ

前置審査に係属中

⑯ 実 願 昭61-31063

⑰ 公 開 昭62-142317

⑱ 出 願 昭61(1986)3月4日

⑲ 昭62(1987)9月8日

⑳ 考 案 者 大 崎 弘 明 愛知県名古屋市西区玉池町203番地

㉑ 出 願 人 大崎衛生材料株式会社 愛知県名古屋市西区玉池町206番地

㉒ 代 理 人 弁理士 岡田 英彦 外1名

審 査 官 石 井 淑 久

㉓ 参 考 文 献 実開 昭60-15314 (JP, U) 実開 昭60-69114 (JP, U)

特表 昭59-500948 (JP, A)

1

2

㉔ 実用新案登録請求の範囲

吸水体と該吸水体の一方側を覆う防水シートとを主体としてほぼ長方形のシート状に形成されたおむつ本体は、短手方向をほぼ3等分し断面はほぼひ形状に折畳み短手方向のほぼ中心部位が長手方向に沿って開口部とされるとともに、長手方向のほぼ半分を谷折りしかつ該谷折りした部位のほぼ半分をさらに山折り状に折返してその各折重ね部の両側縁を一体的に接合して袋状の採尿部が形成されかつその折返し部位の表面には吸水体が位置されていることを特徴とする採尿用おむつ。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、採尿用おむつ、詳しくは採尿のみを目的とするおむつに関するものである。

(従来技術)

従来のおむつは、通常、2～3枚使用して、病人や幼児等の人体の下腹部から臀部にかけての腰部全体を覆い、人体の排泄物である便及び尿をとともに採取するものであった。この従来おむつを本明細書では普通おむつと呼ぶことにする。

(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら、従来普通おむつにあつては、人体の排泄物、すなわち便と尿とが一つのおむつによって同時に採取されるものであることから、尿だけの採取の場合でも、おむつ全体(縦横に敷

いた2～3枚のおむつ)を交換する必要があり、非常に不経済であつた。

特に病人の場合のおむつの交換にあたつては、患者の身体全体を動かして交換するという大掛りな交換作業が必要で、看護人の負担が大きいばかりでなく、患者自身も肉体的苦痛を受けることになつた。

また排便時には、おむつ内で便と尿とが混ざり、排便処理が一層煩わしくなると共に、性器及びその周辺の皮膚に排泄物(便と尿が混ざりあつたもの)が付着して患者は大きな不快感を受けることになつた。

(問題点を解決するための手段)

上記した従来技術における問題点を解決するために本考案は、吸水体と該吸水体の一方側を覆う防水シートとを主体としてほぼ長方形のシート状に形成されたおむつ本体は、短手方向をほぼ3等分し断面はほぼひ形状に折畳み短手方向のほぼ中心部位が長手方向に沿って開口部とされるとともに、長手方向のほぼ半分を谷折りしかつ該谷折りした部位のほぼ半分をさらに山折り状に折返してその各折重ね部の両側縁を接合して袋状の採尿部が形成されかつその折返し部位の表面には吸水体が位置されていることを構成の要旨とするものである。

(作用)

上記した手段によれば、おむつ本体が人体の排尿局所に対応して配置され、かつ同おむつ本体が人体の腰部全体を覆う普通おむつにて覆われて使用されることにより、おむつ本体の採尿部によって採尿のみが果たされる。さらには、採尿部を形成する折返し部位の表面には吸水体が位置されていることにより、該折返し部位によつて前記採尿部で対応できない場合でも充分に排尿の吸収作用を行うものである。

(実施例)

以下、本考案の一実施例を図面に示したがつて説明する。採尿用おむつを斜視図で示した第1図、同側断面図を示した第2図、第2図のⅢ-Ⅲ線断面図を示した第3図、第2図のⅣ-Ⅳ線断面図を示した第4図において、吸水体2を主体としてシート状に形成されたおむつ本体1は、その一端部を折重ね、その折重ねた両側縁を接合することによつて、袋状の採尿部3が形成されている。

前記おむつ本体1は、吸水性を有する吸水体2と、防水性を有しかつ吸水体2の一側面を覆う防水シート4と、通水性を有しかつ吸水体2の他側面を覆う通水シート5とからなる三層構造になっている。そして、防水シート4と通水シート5との両端縁が加熱圧着により接合6、6されると共に、防水シート4と通水シート5との両側縁が吸水体2の両側縁上面にて同上面と一緒に加熱圧着により接合7、7されており、防水シート4と通水シート5とは吸水体2を収容する包袋状に形成されている。なお本例の吸水体2は、粉砕パルプと顆粒状ポリマとを混合してシート状となしたポリマシートからなる吸水性固化シート（いわゆる水分固化シートと呼ばれているもの。）の両側に吸水性紙綿を積層状に重合してなる。また防水シート4は耐水性ポリエチレンシートからなり、また通水シート5は不織布からなる。

さらに、おむつ本体1はその幅方向に3等分されたうちの両側部分が相互に対向方向へ谷折りされ、かつ谷折りした部分の約半分の両側部分が相反方向へ山折りされている（第3図参照）。

さらに、おむつ本体1の長手方向の約半分は谷折りされ、かつ谷折りされた部分の約半分が山折りされ、その谷折り部分と山折り部分における防水シート4の両側部が相互に加熱圧着により接合8、8されており、ここに前記採尿部3が形成さ

れている（第2図及び第4図参照）。

上記した採尿用おむつは、通常、男性患者に使用されるもので、第5図に示すように、おむつ本体1の通水シート5側を人体（男性患者）Mに向けた状態で、人体Mの排尿局所M1を採尿部3内に入れ、おむつ本体1を人体Mに宛てがう。このように採尿おむつ（おむつ本体1）が宛てがわれた状態で、普通おむつ9が周知のように人体Mの腰部全体を覆うように装着される。なお第5図の人体Mはあお向け状態であり、また同図中、M2は肛門部が示されている。

このため、人体Mの排尿局所M1から排出される尿は、おむつ本体1の採尿部3内、特に採尿部3内の吸水体2にすみやかに吸収される結果、普通おむつ9が尿によつて汚れない。

採尿を果たしたおむつ本体1は、普通おむつ9とは別個に適宜交換される。このため、排泄頻度の高い尿の場合は、採尿用おむつを交換するだけでよく、普通おむつ9の交換は不要である。従つて普通おむつ9は、排便の場合のみ交換すればよい。

また本例では、おむつ本体1を縦方向及び横方向に何回か折重ねてあるので、多量の採尿量を確保することができる。また防水シート4によつて、吸収した尿が外部に漏れ出さないと共に、通水シート5によつて人体Mに対する良好な肌触りが得られる。また、おむつ本体1を、通水シート5が一側面全体に露呈されるように折重ねてあるため、人体Mに対する肌触りが確保される。

なお上記した採尿用おむつの製造例について、第6図～第9図を参照して工程順に述べておくことにする。

まず、防水シート4の上に吸水体2が重ねられ、同吸水体2の上に通水シート5が重ねられる（第6図参照）。

次に、通水シート5の両側縁部が、第6図中の折れ線L1、L1に沿つて谷折りされ、同側縁部を通水シート5の両側縁の下側にして、両側縁が加熱圧着されることにより、同側縁相互が吸収体2の側縁部とともに接合7、7され、その後、所定寸法に切断されることにより、第1次加工品Aとなる。（第7図参照）。

次に、第1次加工品Aの両側縁部が、第7図中の折れ線L2、L2に沿つて谷折りされかつ折れ

5

線L 3, L 3に沿って山折りされた後、その両端縁が相互に加熱圧着されることにより、防水シート4と通水シート5が接合6, 6されて、第2次加工品Bとなる。(第8図参照)。

次に、第2次加工品Bの片半部(第8図中、右半部)が、第8図中の折れ線L 4に沿って谷折りされかつ折れ線L 5に沿って山折りされた後、その折重ね部分の両側縁、特に防水シート4の両側縁部が相互に加熱圧着されることにより接合8, 8され、これにより採尿部3が形成された完成品となる(第9図参照)。

また上記実施例では、採尿用おむつを男性患者に使用した例を挙げたが、第10図に示すように、おむつ本体1の折重ね部分に生理用ナブキン等からなる導尿用ナブキン10を介入し、同ナブキン10の一端部を採尿部3に入れることにより、女性患者に使用することができる。すなわち第11図に示すように、おむつ本体1の通水シート5側を人体(女性患者)Wに向けた状態で、人体Wの排尿局部W1に採尿部3のやや上方部位を合せるように、おむつ本体1を人体Wに宛てがう。このように採尿おむつ(おむつ本体1)が宛てがわれた状態で、前記と同様に、普通おむつ9が人体Wに装着される。なお第11図の人体Wはあお向け状態であり、また同図中、W2は肛門部が示されている。

従つて、人体Wの排尿局部W1から排出される尿は、導尿ナブキン10を通じておむつ本体1の採尿部3内、特に吸水体2にすみやかに吸収される結果、普通おむつ9が尿によつて汚れない。なお女性患者用の場合には、実施例のものに比し、採尿部3の深さを浅くして、身体構造に対応させることが望ましい。また導尿用ナブキン10の一端を採尿部3に入れ、同ナブキン10を排尿局部W1に宛てがって使用してもよい。

(考案の効果)

すなわち、本考案によれば、吸水体と該吸水体の一方側を覆う防水シートとを主体としてほぼ長方形のシート状に形成されたおむつ本体は、短手方向をほぼ3等分し断面はほぼ形状に折畳み短手方向のほぼ中心部位が長手方向に沿って開口部とされるとともに、長手方向のほぼ半分を谷折りしかつ該谷折りした部位のほぼ半分をさらに山折り状に折返してその各折重ね部の両側縁を一体的に

6

接合して袋状の採尿部が形成されかつその折返し部位の表面には吸水体が位置されているものであるから、おむつ本体の排尿局部に対応して配置され、かつ同おむつ本体が人体の腰部全体を覆う普通おむつにて覆われて使用されることにより、おむつ本体の採尿部によつて採尿のみが果たされるものであるから、排尿だけの場合には採尿したおむつ本体のみを交換するだけでよく、普通おむつ(2~3枚のおむつ)の交換を必要とした従来に比し、大変経済的である。

また採尿用おむつは、患者の身体全体を動かさずに交換することが可能であるため、おむつ交換に係わる看護人の負担が低減されると共に、患者自身の肉体的苦痛が解消される。

また排便時には、便が尿とは別個に普通おむつに採取されるため、排便処理が行い易くなると共に、性器及びその周辺の皮膚に排泄物(便と尿が混ざりあつたもの)が付着することによる患者の不快感が低減される。

とくに、本考案にあつては、採尿部を形成する折返し部位の表面には吸水体が位置されていることにより、前記採尿部で対応できない場合、すなわち、男性の場合にあつてペニス短く採尿部に対応(挿入)できない状態、または女性の場合にあつては当然採尿部対応(挿入)できないものであり、この場合でも前記吸水体が位置された折返し部位によつて排尿の吸収作用を確実に行うことができるという利点を有する。

なお採尿用おむつは、普通おむつに比し、コンパクトであるため、その保管、運搬等も便利であり、また生産コストも低廉化し得、使用者に安価に提供することが可能である。また採尿用おむつは、病人の他、老人、幼児等にも広く使用することができる。

35 図面の簡単な説明

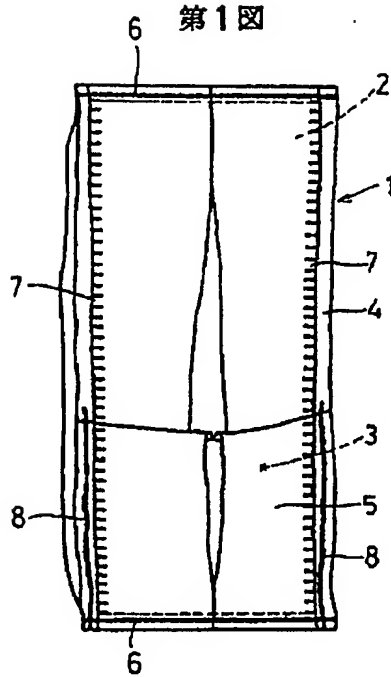
図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は採尿用おむつの斜視図、第2図は同側断面図、第3図は第2図のⅢ-Ⅲ線断面図、第4図は第2図のⅣ-Ⅳ線断面図、第5図は男性に使用した状態を示す略体説明図、第6図~第9図は製造工程を順に示す平面図、第10図は女性に使用する場合の採尿用おむつの斜視図、第11図はその使用状態を示す略体説明図である。

1……おむつ本体、2……吸水体、3……採尿

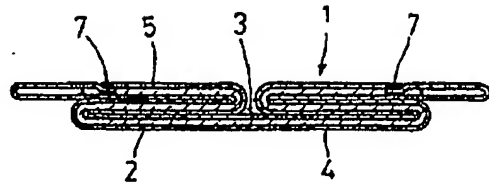
7

部。

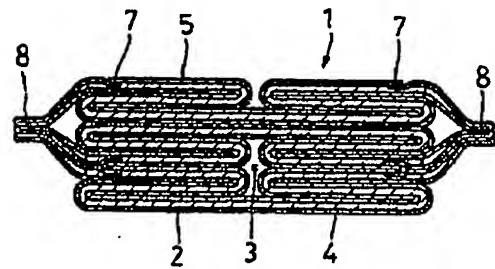
第1図



第3図

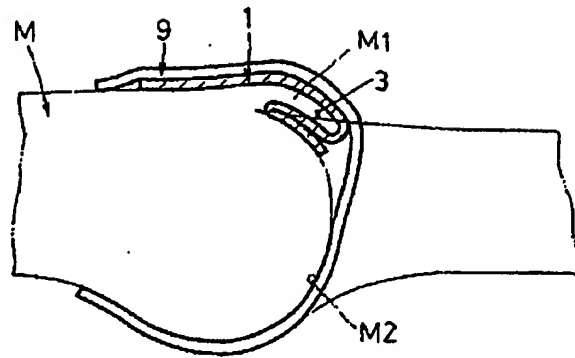


第4図

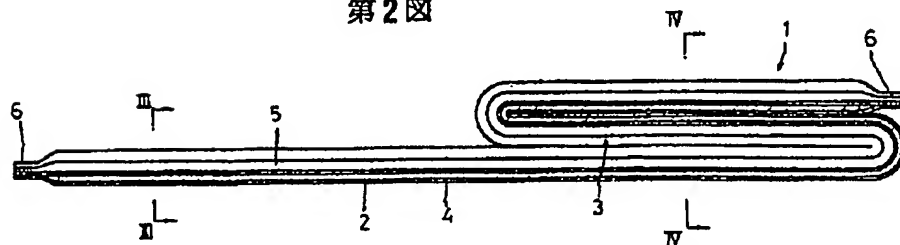


- 1 --- おむつ 本体
- 2 --- 吸取体
- 3 --- 排尿部

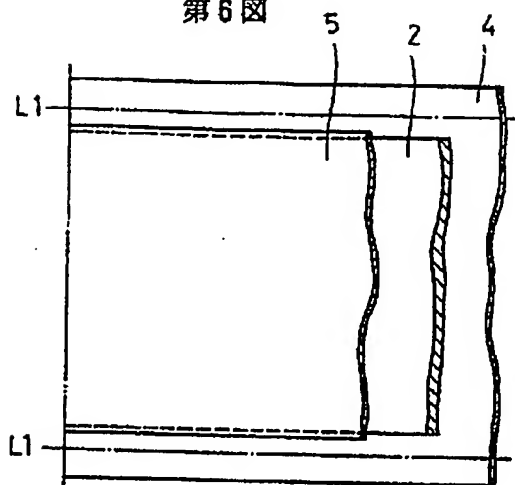
第5図



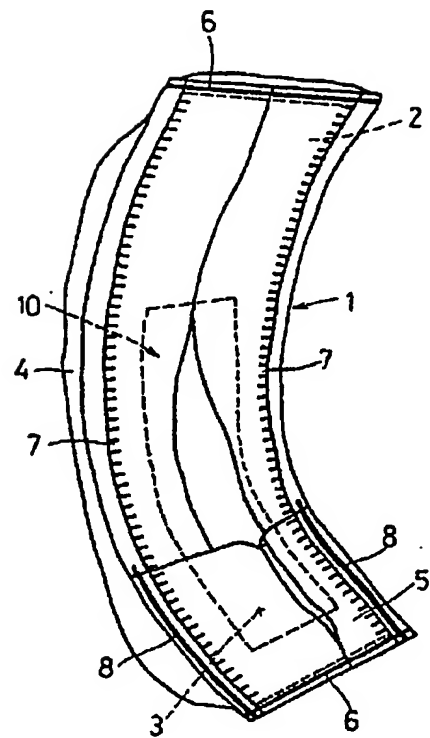
第2図



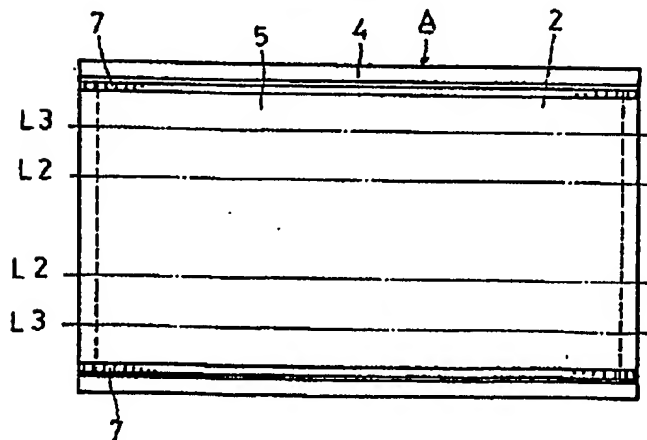
第6図



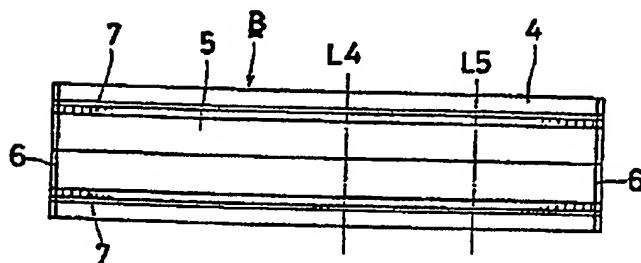
第10図



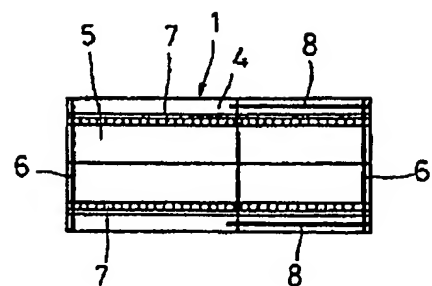
第7図



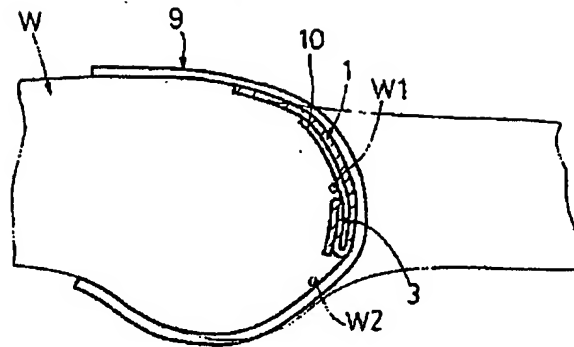
第8図



第9図



第 11 図



BEST AVAILABLE COPY